

20100

下肢慢性完全閉塞病変に対する CROSSER の使用経験

【背景】末梢動脈疾患 (PAD) の増加に伴い下肢血管内治療 (EVT) が増加している。下肢慢性完全閉塞 (CTO) や高度石灰化病変では EVT に難渋する事が多い。2014 年 4 月より下肢領域においてもデバルキングデバイスである CROSSER が使用可能となった。**【目的】**CROSSER のデバイス概要と当院での使用経験と安全性を検討する**【対象】**【2014 年 4 月 1 日から 6 月 30 日までに当院で CROSSER を併用し EVT を施行した CTO の 4 症例。跛行症例が 2 例、重症虚血肢が 2 例であった。**【症例 1】**60 歳男性で左浅大腿動脈完全閉塞。CROSSER 単独使用**【症例 2】**81 歳男性で右前脛骨動脈完全閉塞。ワイヤー先行で CROSSER 使用**【症例 3】**81 歳男性で左後脛骨腓骨動脈幹完全閉塞。ワイヤー先行で CROSSER 使用**【症例 4】**53 歳男性で左浅大腿動脈完全閉塞。ワイヤー先行で CROSSER 使用していたが途中からワイヤーが通過しなくなった為、CROSSER 単独使用に変更**【結果】**全例 CTO の再開通に成功した。平均の ABI 値も 0.61 から 1.29 と著明に改善が認められた。今回の症例では合併症として血管穿孔や末梢塞栓は起こらなかった。**【まとめ】**慢性完全閉塞病変に対する EVT において CROSSER の併用は有用であった。本デバイスを安全に使用するためには、デバイスの特性を理解することと適切な手技が必要である。